

びっちゃん よしつね  
備中にも義経が！？

なぞ ぶしょう すやまよしたか  
～謎につつまれた武将、陶山義高～  
(その1)

すやまし かもん  
陶山氏の家紋



陶山城復元想像図 (原田恵子 作)  
金浦の町の背後にある標高100mの山上に築城され、本丸、東丸、西丸の連鎖式山城の形を作り、その姿が鉄輪のように連なり「すあま」に見えるところから、陶山氏の紋所にしたそうです。(6年 森兼 優)



笠岡山城古墳跡  
威徳寺境内に集め祀られた五輪塔  
(6年 江本武宣)

鎌倉時代から室町時代にかけて、戦で大活躍した笠岡の武将がいたそうです。そして、室町幕府を開いた将軍、足利尊氏とも親交があったらしいのです。陶山氏一族は、どこに住んでいたのでしょうか。また、陶山義高は、どんな人物だったのでしょうか。(6年 森兼 優)

～陶山義高って？～

- Q どこで生まれたの？  
A 金浦で生まれました。
- Q どんな人？  
A 勇ましく、武術にすぐれ、頭も良く、力もあつたそうです。
- Q どこに住んでいたの？  
A 笠岡山城を根拠地(本拠地)とし、京都にも住み、鎌倉幕府に仕えていたそうです。
- Q 城は今もあるの？  
A 今は残っていませんが、笠岡山城の城跡は竜王山にあります。
- Q 家紋の意味は？  
A めでたい時などにつかわれ、金浦の砂浜をイメージした洲浜紋です。  
(6年 森兼 優・江本武宣)

かたがはか自慢  
子ども新聞

笠岡地区  
まちづくり  
協議会  
文化部会

【陶山城・陶山氏に関する年表】

平安時代	1107年	陶山盛高が源義親を出雲で討ち取り、ほうびとして、陶山城に移る。
鎌倉時代	1294年	陶山義高が支配地巡察のとき笠岡村に無双の城地を発見し、城郭を創建して笠岡山城と名付け、魚渚陶山城より移住する。
	1331年	笠置山の戦い。幕府側の兵は75,000、天皇側は3,000余と戦力では不利な状況ではあったが、笠置山は天然の守りということもあって幕府側相手に善戦していた。その後、風雨の夜に幕府側の陶山義高らが山に放火したことによって天皇側は総崩れとなり、笠置山城はついに陥落した。数日以内に天皇や側近らは幕府側に捕らえられた。
	1332年	陶山氏が吉田にある遍照寺を西浜部落発展のため現笠岡に移住する。
	1332年2月	陶山義高が有田にて戦死する。(威徳寺過去帳による1説)
南北朝・室町時代		
	1338年	室町幕府が開かれ足利尊氏が征夷大将軍になる。
	1349年	備後新市の桜山軍が幕府軍・陶山一族が立て籠もる西濱城を火攻めにし、用之江郷の森山城に敗走し、さらに、在田郷に敗走した陶山義高を追って向山で激戦(籠山の戦い)となり、郎党平蔵とともに自害する。(2説)

参考資料：百科事典『ウィキペディア』、金浦公民館「陶山城と陶山一族」(6年 森兼優・江本武宣・水金弘貴)